



ガンバ大阪 ユース  
キャプテン 食野亮太郎選手

個性豊かな今年のチームを、持ち前のリーダーシップで束ねるキャプテン。ポジションはFW。ユースとしてもチームを引っ張る「ユース」の大黒柱。



▲貪欲に勝ちにこだわる食野キャプテン(写真右)

## U・18世代の「日本一」へ。頂点を目指し努力を重ねる

今年の「ユース」の特長は「チームワークの良さ」。宮本監督も「3年生がしっかり引っ張ってくれています」と信頼を置く。このチームワークを作り上げる中心選手は、食野亮太郎キャプテン。FWとして勝利へ導くだけでなく、精神的な支柱としてもチームに欠かせない選手だ。「僕が大切にしているのは、チームの輪。43人いたら個性も違う。ぶつかり合っても、間に入って仲直りさせるなど、思ったことを言い合える仲間作りを心がけています」。

食野キャプテンに、チームとしてのこれらの目標を聞くと「昨年は(高宮宮杯U・18サッカーリーグ)プレミアリーグ・ウエストで優勝できたのですが、(東日本・西日本の各優勝チームが戦う)チャンピオンシップで『鹿島アントラーズユース』に負けてしまったんです。今年もチャンピオンシップに行き、何としてもタイトルを勝ち取るという目標を据えています」と力強く

語ってくれた。プレミアリーグとは、東西10チームずつが参戦する高校生年代の最高峰リーグだ。昨年は頂点が目の前にあったにも関わらず、惜敗を喫してしまった。味わった悔しさが原動力となり、チームは「丸」となってさらに厳しいトレーニングを重ねている。今回取材した「ユース」は、紛れもなくサッカーエリートたち。が集まるチーム。そんなエリート集団を束ねる食野キャプテンにも「ジュニアユース」に所属していた中学2年生のとき、大きな壁にぶち当たったことがある。そっだ。「何をやっても自分の欠点ばかりが出てしまつて、当時のコーチに1週間連続で帰らされたことがありました(笑)。でも、あのときコーチに何も言われずにいたら、僕はきっと「ユース」に上がれていなかったし、そのままサッカー人生も終わっていたと思います。メンタルを徹底的に鍛えてくださったし、人間的にも大きく育てていただいた。あの経験があったからこそ、今の自分があると思つています。逆境を乗り越えられなかった人間には決して遂げられない人間的成長。まさに「アカデミー」のスタッフ陣の指導の賜物だ。

## 世界へ羽ばたく選手を地域全体で盛り上げる

「アカデミー」では、「ジュニアユース」の年代から年に一度スベイン遠征を行い、世界レベルを肌で感じる機会を作るなど、選手の向上心育成にも注力する。食野キャプテンに個人的な目標を聞くと、返ってきたのはやはり世界を意識した答えだった。「まずは『ガンバ大阪』のトップチームで活躍すること。そうすればヨーロッパのビッグクラブから声がかかると思っています。僕は『FCバルセロナ』でプレーしたい。そして、世界で一番巧いサッカー選手になりたい」。具体的に、臆せず公言する彼の姿には、当然迷いはなく、目標を達成するための覚悟すら感じた。

最後に、宮本監督に「ガンバ大阪」の今後について伺った。「『FCバルセロナ』のように、フットボールクラブ以上の存在にならないといけないと感じています。単なるサッカークラブ、の枠組みを超える努力をして、いつも応援して下さる地域の皆様にさらに必要とされる存在でありたいです」と話してくれた。また、「観戦に来てくださるということは、選手にとって本当に嬉しいこと。ぜひ今後も、足を運んでいただけると嬉しいです」とも。トップチームはもちろん、「ユース」



▲ひたむきに頂点をめざし、走り続ける「ユース」メンバー。吹田で日々ハードな練習を重ねる彼らを、地域全体で応援しよう

**information**

高宮杯 U-18 サッカーリーグ 2016  
プレミアリーグ 開催中

■9/25(日)  
VS 京都サンガ F.C. U-18  
会場: 京都サンガ F.C. 東城陽グラウンド

■10/1(土)  
VS サンフレッチェ広島 F.C. ユース  
会場: ガンバ大阪グラウンド

試合日程・詳細は公式サイトにて  
<http://www.gamba-osaka.net/>



## 巻頭特集

# ここ吹田から、世界へ。 ガンバ大阪 ユース

吹田市をホームタウンとする『ガンバ大阪』。日本サッカー界を牽引し続けるチームの強さの要因のひとつは、育成組織『ガンバ大阪 アカデミー』だ。今回は、世界を舞台に活躍できる選手を育む『ガンバ大阪 ユース』に迫る。

## フィジカル・メンタルともに トップで通用する人材を育む

吹田市民にとっては、もはや説明不要なフットボールクラブ『ガンバ大阪』。「Jリーグ」で戦う組織がトップチーム、その下部には「ガンバ大阪アカデミー」(以下「アカデミー」)がある。小学生による「ガンバ大阪ジュニア」、中学生による「ガンバ大阪ジュニアユース」(以下「ジュニアユース」)、高校生による「ガンバ大阪ユース」(以下「ユース」)の3カテゴリーで構成され、トップチーム加入を夢見て、選手たちは日々鍛錬を重ねている。「アカデミー」を経て日本屈指のプレーヤーとなった選手は、稲本潤一選手、大黒将志選手、家長昭博選手、安田理大選手、宇佐美貴史選手と数多いが、なかでも有名なのは、現在「ユース」の監督を務める宮本恒靖氏。Jリーグ開幕を翌年に控えた1992年、高校1年生で「ユース」二期生として加入した。「ボールを思い通りに止め、思い通りの場所に置き、しっかりと蹴る」という基礎の基礎を徹底的に学んだ3年間でした。そのときの経験があるからこそ、僕は「口になったと思っています」と振り返る宮本監督。「3年間上級生がいないうちで、(笑)、ずっとキャプテンを任せてもらっていました。コーチから、1日数分でもいいから毎日サッカーについて必ず真剣に考えなさい」と



ガンバ大阪 ユース 宮本恒靖監督

2002・2006年には「FIFA ワールドカップ」へ出場し主将を務めたサッカー元日本代表選手。現在は指導者として次世代を担う選手の育成に心血を注ぐ。



▲試合中でも冷静に判断し、実行に移せる選手を育てる